

## § 4 ローマ字教育実験学級の終末テスト

(注：テスト問題のうち、ローマ字文は便宜上、訓令式つづり方のものを示した。実際の場合には、このほかに、標準式・日本式のつづり方によるものを印刷し、それぞれの学級が採択しているつづり方のものを送付したのである。

### 〔I〕 昭和26年度 終末テスト

ローマ字教育実験学級，昭和26年度終末テストは，各学級において，40時間指導の後実施するもので，〔I〕瞬間に読みうる単語，〔II〕文脈によって読む(1)，〔III〕文脈によって読む(2)，〔IV〕黙読(速さ)，〔V〕黙読(理解力1)，〔VI〕黙読(理解力2)，〔VII〕音読，〔VIII〕見ながら書く，〔IX〕おぼえて書く，〔X〕聞き取り書き(単語)，〔XI〕聞き取り書き(文)の11種類である。

その要領は下記のとおりである。

種 類	問題	用 紙	時 間	採点
〔I〕 瞬間に読みうる単語	文部省で作成	一目読みのカード，答案用紙は各学校で謄写印刷	適当	文部省で行う
〔II〕 文脈によって読む(1)	〃	文部省で印刷・配布	問題二つで10分	〃
〔III〕 〃 (2)	〃	〃	問題二つで10分	〃
〔IV〕 黙読(速さ)	〃	〃	問題 5分 質問 5分	〃
〔V〕 〃(理解力1)	〃	〃	問題・質問で10分	〃
〔VI〕 〃( 〃 2)	〃	〃	問題・質問で10分	〃
〔VII〕 音 読	〃	〃	問題 3分 質問 適当	〃
〔VIII〕 見ながら書く	〃	問題・答案用紙とも，各学校で謄写印刷	5分	〃
〔IX〕 おぼえて書く	〃	〃	2分	〃
〔X〕 聞き取り書き(単語)	〃	〃	1度目 ややゆっくり読む 2度目 6分 3度目 3分	〃
〔XI〕 〃 (文)	〃	〃	1度目 ややゆっくり読む 2度目 6分 3度目 2分	〃

以上の11種類をこの順序で続けて実施する。ただし、各種類の問題用紙を全部1度に配るのではなく、一つのテストがすんで、その答案を集め終ってから、その次の問題用紙を配るようにする。

なお、児童はできるだけひとりひとり別に並ばせるようにし、また、教室内に掲示してあるローマ字書きのものは必ず取り除き、ローマ字書きの板書などは必ず消しておくこと。

#### テストを終わってから

- 1 番号・名まえを書きおとしている児童がないかを調べる。
- 2 各問題別に番号順にそろえ、表紙（学校名・問題の種類・実施年月日を明記）をつけ、紙の左側をしっかりとしたひもでとじる。
- 3 児童の名簿（当日の欠席を記入）を添える。
- 4 教師の模範答案を添える。
- 5 各問題ごとに、既習語・未習語を明示する。
- 6 下記の報告事項は特に注意して忘れないようにしてほしい。
  - (1) 「〔I〕瞬間に読みうる単語」の語形。
  - (2) 「〔VII〕音読」の評価表の記入。
  - (3) 「〔X〕聞き取り書き（単語）」の単語の語形。
  - (4) 「〔VI〕聞き取り書き（文）」のローマ字書きの文。
- 7 文部省あてに送る。

#### 〔I〕瞬間に読みうる単語

##### 1 準備

- (1) 下の表に掲げる20語の単語について、1枚ずつローマ字書きの一目読みのカードを作成する。カードの大きさ、記載する文字の大きさは、教室の最後列の児童が楽に読むことができる程度の大きさでなければならない。また、文字は墨と筆ではっきり、マヌスクリプト体で書く。
- (2) つづり方・わかち書き・符号などは日常指導のとおりにする。

る。

- (3) 下のひな型のような答案用紙を作成する。ただし、各欄には1, 2, ……の番号だけを記入し、単語は記入してはならない。  
〔用紙はわら半紙半分の大きさ（規格 B5 判）を縦長に使う。〕

〔I〕 瞬間に読みうる単語					
小学校	3年	組	番号	名まえ	おとこ おんな
1	(ちゃのみちゃわん)		11	(めがね)	
2	(この)		12	(しかし)	
3	(くりのき)		13	(いきおいよく)	
4	(ピッチャ〔ぴっちゃ〕)		14	(ゆきだるま)	
5	(でんしゃ)		15	(おもいつく)	
6	(ゆかいだ)		16	(ぎんいろ)	
7	(すっかり)		17	(ゆうびんきょく)	
8	(てんきよほう)		18	(みじかい)	
9	(ほうそうきょく)		19	(つくって)	
10	(きんようびのしんぶん)		20	(どこ)	

## 2 児童に対する注意

- (1) 紙を1枚ずつ配ります。
- (2) 名まえのところを漢字・かなで書いてください。男の人は、「おとこ」を、女の方は「おんな」を○でかこんでください。(どの問題も同じ)。
- (3) 先生が一目読みのカードを見せますから、みんないっしょにそのことばがなんということばかを、今配った紙の上に、か

なで書いてください。

- (4) 1, 2と番号を言いながら、カードを見せませんから、1は1の番号のところに書いてください。

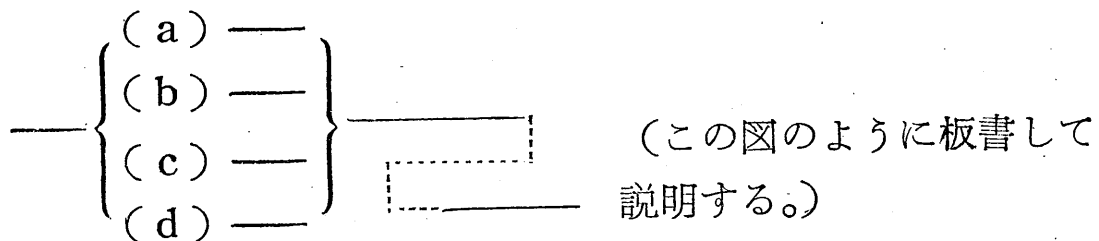
### 3 実 施

- (1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)  
(2) 1, …… 2, …… 3, …… (適当に書く時間を与える。)  
(3) 書くのをやめてください。  
「やめ。」(いっせいにやめさせる。)  
(4) 集めて番号順にとじる。

## [Ⅱ] 文脈によって読む (1)

### 1 児童に対する注意

- (1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまでは問題を  
読んではいけません。  
(2) もんたいの数は二つあります。「始め。」と言ったら、ど  
ちらからでもよいかからやってください。  
(問題1について。)  
(3) 「もんたい1」は、

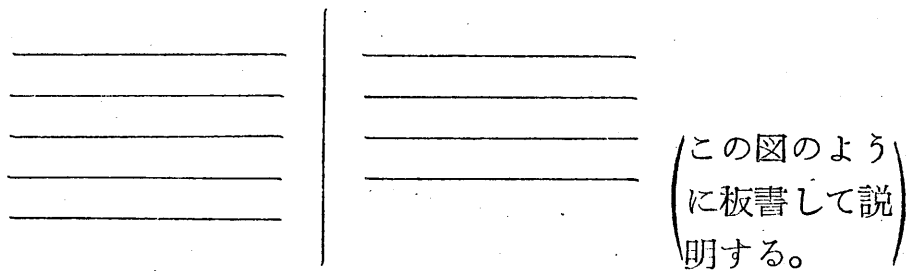


のようになっていますが、こういうように読んで、(読み方を指  
示する。) (a), (b), (c), (d)のうち、どれか一つを選んで  
前と後とをつづけて一つの文になるようにしてください。

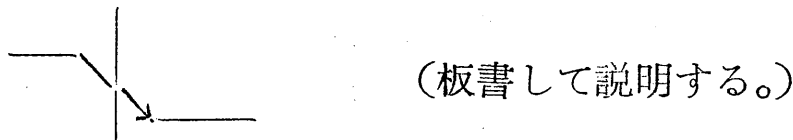
- (4) どれがいちばんいいと思う答の (a), (b), (c), (d)の前  
に○をつけてください。

(問題2について。)

- (5) 「もんたい2」は、



のように左側に五つ、右側に四つことばが書いてありますが、左側のことばと右側のことばとを一つずつ結びつけて、できるだけたくさん文を作ってください。結びつけるのは、



のように線で結びつけてください。

(5) 名まえのところはあとで書いてください。

## 2 実 施

(1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)

(2) (10分たったら、)「やめ。」

(3) 名まえのところを書いてください。

(4) 番号順にとじる。

## 〔Ⅲ〕 文脈によって読む (2)

### 1 児童に対する注意

(1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまでは問題を読んではいけません。

(2) 問題の数は二つあります。「始め。」と言ったら、どちらからでもよいからやってください。

(3) 「問題3」には文が四つあり、「問題4」には文が三つ出ています。どの文にも  (板書して示す。) をつけてあけてあるところがあります。その中に、下に出してある語の中から、いちばんよいと思うものを選んで入れてください。

(4) 名まえのところはあとで書きます。

## 2 実 施

- (1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)
- (2) (10分たったら,)「やめ。」(いっせいにやめさせる。)
- (3) 名まえのところを書いてください。
- (4) 集めて番号順にとじる。

### [IV] 黙 読 (速さ)

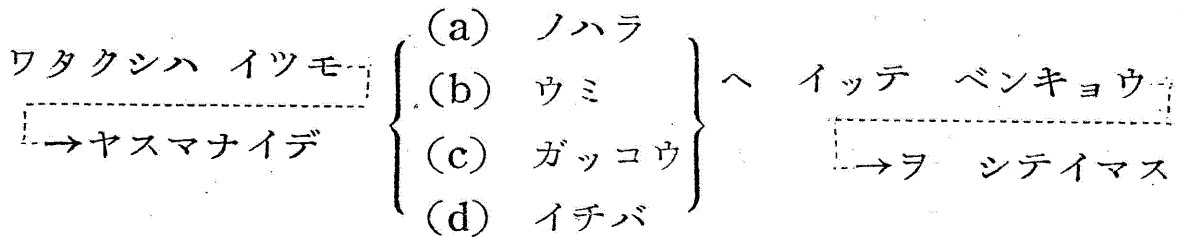
#### 1 準 備

児童に赤鉛筆を用意させておく。

#### 2 児童に対する注意

- (1) 問題の紙と質問の紙との2枚があります。2枚とも裏向きにして、問題のほう为上になるように配ります。
  - (2) はじめに問題の紙のほうを読んでもらいますが、「始め。」と言うまではあけて読むはいけません。
  - (3) あとで質問に答えてもらいますから、何が書いてあるかわかるように読んでください。
  - (4) 見たことのないことばがあってもどんどん読んでいってください。
  - (5) 「やめ。」といったら、赤鉛筆で、読んだところに「J」印(板書して示す。)をつけなさい。
  - (6) 「やめ。」と言わないうちに読み終わった人は、もう1度初めから読んでください。その人は、問題の最後と2度目に読んだところに「J」印をつけてください。
- (時間は5分であるが、児童には知らせない。)
- (7) 「J」印をつけ終った問題の紙を机の中に入れてください。次に下のほうの質問の紙をあけてやるのですが、「始め。」と言うまではあけてはいけません。
  - (8) 質問をよく読んで答えてください。質問は問題によくあった文を選ぶのです。(時間は5分であるが、児童には知らせない。)

(9) 質問の文は、ほかの例で説明すると、次のようになっています。これはこういう順序で（読みかたを指示する。）読むのです。



(この例をローマ字で板書して説明する。)

(10) この (a), (b), (c), (d) のうちで、どれか一ついちばんよいと思うものを選んで、前や後を結びつけて、問題の文に書いてあったこととよくあう文にするのです。

(11) よいと思うものには (a), (b), (c), (d) のまえに○をつけてください。

(さきのローマ字書きの文例に、実際に (c) のまえに○をつけてみせる。)

(12) 名まえのところはあとで書いてください。

### 3 実 施

(1) 「始め。」上のほうの問題の紙をあけて読みなさい。(テスト時間5分間。)

(2) (5分たったら,)「やめ。」(赤で「印をつけたかどうかを確かめさせる。)

(3) 問題の紙を机の中に入れさせる。

(4) 「始め。」質問のほうの紙をあけて読みなさい。(テスト時間5分間。)

(5) (5分たったら,)「やめ。」

(6) 問題・質問ともに名まえのところを書かせる。

(7) 問題・質問別に集めて、番号順にとじる。

[V] [VI] 黙読 (理解力1, 2)

#### 1 児童に対する注意

- (1) 問題の紙は、大きい紙と小さい紙と2枚あります。両方とも裏向きにして大きい紙が上になるようにくばりますから、「始め。」と言ったら大きい紙からさきにやってください。
- (2) どの問題も、問題の文をよく読んで、質問に答えてください。
- (3) よいと思う答に○をつけるのですが、○は答のすぐまえのところに、(a), (b), (c), (d)のうちから選ぶものには、(a), (b), (c), (d)の前にはっきりつけてください。
- (4) 名まえのところはあとで書くのです。

## 2 実 施

- (1) 「始め。」、大きい紙をあけてやってください。問題の文を読んで、質問に答えるのです。時間はじゅうぶんあります。
- (2) (10分たったら,)「やめ。」
- (3) 大きい紙をしまいなさい。
- (4) 小さい紙をあけてやってください。
- (5) (10分たったら,)「やめ。」
- (6) 2枚とも名まえのところを書いてください。
- (7) 問題1, および問題2を別々に集めて番号順にとじる。

## 〔Ⅶ〕 音 読

### 1 準 備

- (1) 児童の控え室を、テストをするへやのとなりに設ける。
- (2) テスト用紙(児童に読ませる分。)は各児童とも同一のものを用いる。この問題用紙は厚紙で裏打ちをしておく。

### 2 児童に対する注意

- (1) はじめにローマ字で書いてある問題を先生に聞えるぐらいの声を出して読んでもらいますが、「やめ。」と言ったらすぐにやめてください。
- (2) 読むことが終わったら、こんどは、かなと漢字で書いた質問をだまって読んで、その中の正しい答を口で言ってもらいま



す。

- (3) 問題と質問の紙は、机の上に置いてありますから、本を読むようにして読んでください。読み終わったらそのまま机の上に置いておきなさい。紙をよごさないように注意しなさい。

### 3 教師に対する注意

- (1) 表題も読ませる。
- (2) 児童ひとりひとりについて、1枚ずつ問題・質問を教師が用意して、教師がテストの結果を記入する。
- (3) 児童ひとりひとりについて、開始・終了の時刻を評価表の上に記入しておく。(特に3分間以内で読み終わったものは秒まで。)
- (4) 問題を読む時間は3分間とする。(児童には、この時間を知らせない。)
- (5) 3分間で読めたところに教師が「J」印をつける。
- (6) 評価表へは次の要領で記入する。  
読み誤った語 (/), 読みなおした語 ( $\phi$ ), 読めなかった語 ( $\times$ ), 考えて読んだ語 ( $\otimes$ ), 読み落した語 (—), 読み加えた語 ( $\wedge$ ) のような印をつける。なお、 $\wedge$ の上には読み加えた語を適当に書き加えておく。
- (7) 評価表における以上の語数の集計は、すべてのテストが終わってから計算して記入する。
- (8) 評価表の下段の、態度・読み方の評価は、ひとりひとりのテスト実施中に書き入れる。
- (9) 質問は児童に黙読させながら、教師のほうで声を出して読んでやって、正しい答を口で言わせて、教師のほうで印をつける。
- (10) あまり長く考えさせないで、答えさせるようにする。
- (11) 質問は、問題を3分間で読みとった分量を考えてテストする。

(12) 質問の何番までテストしたかを記入しておく。

(13) テストの終わった児童は控え室へ入れないようにする。

#### 4 実 施

(番号順に1名ずつ児童をテストする室に呼び入れる。)

(1) (問題用紙を示して,) 「始め。」(静かに音読させる。)

(2) (3分たったら,) 「やめ。」(所定の時間はあらかじめ児童に知らせない。)

(3) (質問用紙を示して,) 「始め。」「あっているものを口で言いなさい。」

(4) (適当な時間を見はからって,) 次の質問に移る。

〔Ⅷ〕 見ながら書く。

〔Ⅸ〕 おぼえて書く。

#### 1 準 備

(1) 次に掲げるような紙を用意して、大きいほうの左側(A)を見ながらローマ字で書かせ、あとで小さなほうの紙(B)に答を記憶によって書かせる。〔用紙(A), (B)は別々に作ること。〕

(2) 見ながら書く問題は、(A)に掲げたような文章を、教師がローマ字書きに改めてプリントして与える。

(3) ローマ字文のつづり方・わかち書き・句読点・字の大きさ・段落の切り方などは、日常の学習指導のとおりにして、マスキリフト体で書く。

(4) 書かせる紙に、けいは引かない。

(5) おぼえて書く問題は、(B)に掲げるような質問を口で言っただけをローマ字で書かせる。(見ながら書くのがおそくて、全文を読みきれなかったために、質問に答えられないと予想される児童に対しては、その質問は省略してもさしつかえない。)

#### 2 児童に対する注意

- (1) 紙を2枚配ります。大きい紙と小さい紙とがありますが、大きいほう为上になるように裏向きに配ります。
- (2) 「始め。」と言ったら大きいほうの紙をあけて、紙の左側に書いてあるローマ字文を見ながら、それと同じ文を右側にローマ字で書いてください。
- (3) 書くときに線を引いてはいけません。
- (4) あとで、そこに書いてあったことを聞きますから、よく読みながら書いてください。
- (5) 名まえのところはあとで書いてください。
- (6) その質問は三つです。1, 2, 3と言いながら、一つ一つゆっくり聞きますから、その答を、(1), (2), (3)の番号のところに書いてください。

### 3 実 施

- (1) 「始め。」「大きなほうの紙を出してやってください。」
- (2) (5分だったら,) 「やめ。」(この時間はあらかじめ児童には知らせない。)
- (3) その紙を机の中に入れてください。
- (4) 小さなほうの紙を出してください。
- (5) 今、大きいほうの紙に書いたことを聞きますから、その答を小さなほうの紙に書いてください。
- (6) (1)……, (2)……, (3)…… (1問ずつゆっくり質問し、児童が答を書く時間を与えて、次の質問をする。ただし、総時間は2分。)
- (7) (2分たったら,) 「やめ。」(いっせいにやめさせる。)
- (8) 2枚とも名まえを書かせて、番号順に集めてとじる。

(A) [わら半紙1枚(規格B4判)を横長に使う。]

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 [VII] 見ながら 書 く             </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 小学校 3年 組             </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 番号             </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 名 まえ             </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">おとこ</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">おんな</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"></td> </tr> </table>	おとこ		おんな	
おとこ								
おんな								

((まさちゃんは、はごいたを かかえて、こぶたの こやへ いきました。  
 「ぶたさん、おめでとう。きょうは、お正月よ。ぶたさんも、そとへでて あそびなさい。」と、こやをあけてやると、ぶたさんも、うれしそうです。  
 うんどうばへ でて ぴょんぴょんと、とびはねました。))

<上の文をマヌスクリプト体で、ローマ字書きにすること>

(B) [わら半紙½枚(規格B5判)を縦長に使う。]

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 [K] おぼえて 書 く             </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 小学校 3年 組             </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 番号             </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 名 まえ             </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">おとこ</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">おんな</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"></td> </tr> </table>	おとこ		おんな	
おとこ								
おんな								

(2) ((今、書いた文に出て来る女の子の名まえを書いてください。))  
 (答をローマ字で書かせる。)

(2) ((今、書いた文に出て来る動物の名まえを書いてください。))  
 (答をローマ字で書かせる。)

(3) ((その動物はどこへ出て遊びましたか、遊んだ場所を書いてください。))  
 (答をローマ字で書かせる。)

<児童に与える紙には、この質問を書くには及ばない。(1),(2),(3)の番号だけを書いておけばよい。>

[X] 聞き取り書き (単語)

1 準備

- (1) 下に示すようなけいを引いた紙を用意する。用紙はわら半紙半分の大きさ(規格 B5 判)を縦長に使う。
- (2) けいと番号だけを印刷する。( ) 内に掲げた単語は印刷してはならない。[( ) 内に掲げた単語を教師が番号といっしよに口で言って児童にローマ字でその位置に書かせるのである。]

[X] 聞き取り書き (単語)	小学校	3 年 組	番号	名まえ	おとこ おんな
(1) (あたま [頭])	(11) (バ ス)				
(2) (ちょうちょう)	(12) (電 車)				
(3) (え ほ ん)	(13) ( 紙 )				
(4) (学 校)	(14) (い も)				
(5) (か ぎ)	(15) (ミ ル ク)				
(6) (な わ と び)	(16) (お 舟)				
(7) (パ ン 屋)	(17) (ロ ー マ 字)				
(8) (し っ ぽ)	(18) (わたし [私])				
(9) (野 球)	(19) (雑 誌)				
(10) (自 転 車)	(20) (病 気)				

## 2 児童に対する注意

- (1) 紙を配りますから、すぐに名まえの所を書いてください。
- (2) 先生が読みあげることばを、読むとおりにローマ字で書いてください。
- (3) ことばを読みあげるときに、一つずつ1,……; 2,……と番号をつけて言いますから、1のことばは1の所、2は2の所というふうに書いてください。
- (4) いちばんはじめは、ふつうの速さで読みますから、よく聞いていてください。このときには書いてはいけません。
- (5) 2度目に一つずつゆっくり読みますから、一つずつ書いてください。
- (6) ことばによっては、印(符号)をつけなければなりません。自分ではよく考えて必要だと思ふ印(符号)をつけてください。
- (7) 3度目にもう1度全体をゆっくり読みますから、自分の書いたものをよく見て、まちがっているところをなおしたり、ぬけたところがあったら書き入れたりしてください。印(符号)もよく注意してください。
- (8) 「やめ。」と言ったらすぐにやめてください。

## 3 実 施

はじめ(1度目)に読む時間……………ふつうの速度よりもやや  
ゆっくり読む。

書かせる時(2度目)に読む時間……………(20語を通じて,) 6分。

3度目に読む時間……………(20語を通じて,) 3分。

## 〔XI〕 聞き取り書き(文)

### 1 準 備

- (1) 次のようなわら半紙半分の大きさ(規格 B5判)の答案用

紙を作成する。文を書くところに線を引いてはならない。

(2) 問題以外は印刷しておく。

(3) ( ) 内に掲げた文を教師が番号順に口で言って、児童にローマ字で所定の位置に書かせる。

〔Ⅺ〕 聞き取り 書き(文)	小学校 3年 組	番号	名 まえ	おとこ おんな
-------------------	----------	----	---------	------------

—1 (しゅんいち君と | ひろ子さんが、 | いっしょに | 学校へ | 行っています。  
しろが | しっぽをふって | ついて行きます。 | )

—2 (「どこへ | 行くのですか。 | 」 「おかあさんの | おつかいで | ゆうびん  
きょくへ | 行くのです。」 | )

—3 (「きょうは、 | 日曜日ですから、 | はらっぱで | 遊びましょう。」 | )

番号は適当な位置に書いておく。

## 2 児童に対する注意

(1) 紙を配りますから、まず名まえの所を書いてください。

(2) これから先生が読みあげる文を、読むとおりにローマ字で書いてください。

(3) 1, 2, 3と番号を言ってから文を読みますから、1は1の所、3は3の所というふうに書いてください。

- (4) いちばんはじめに、ふつうの速さで読みますから、よく聞いていてください。この時に書いてはいけません。
- (5) 2度目には一つの文をひとくぎりずつゆっくり読みますから、その間に書いてください。文を書くときに使ういろいろの印(符号)は言いませんが、自分でよく考えて必要だと思ふ印(符号)をつけてください。
- (6) 3度目にもう1度全体をゆっくり読みますから、自分の書いたのをよく見て、まちがっているところをなおしたり、ぬけたところがあったら書き入れたりしてください。印(符号)にもよく注意してください。
- (7) 「やめ。」と言ったらすぐにやめてください。

### 3 実 施

- (1) ひな型に掲げた問題につけた | の印は、書かせる時(2度目)に読むときのくぎりを示すものである。
- (2) はじめ(1度目)に読む時間……ふつうの速度よりもややゆっくり読む。  
書かせる時(2度目)に読む時間…(3問題を通じて、) 6分。  
3度目に読む時間……(3問題を通じて、) 2分。



〔Ⅱ〕 文脈によ  
って読む (1)

小学学	3年 組	番号	名 まえ	おとこ おんな
-----	------	----	---------	------------

〔もんだい 1〕

つぎの文をよんで (a) (b) (c) (d) のうち、いちばんよいとおもうものに○をつけなさい。

Sensei ga  $\left\{ \begin{array}{l} (a) \text{ osorosii} \\ (b) \text{ kanasii} \\ (c) \text{ omosiroi} \\ (d) \text{ sabisii} \end{array} \right\}$  ohanasi o sita node, minna wa itido ni waratta.

〔もんだい 2〕

つぎの、左がわと右がわとをせんでむすびつけて、一つの文にしなさい。

Ozisan kara	mukô kara hasitte kimasu.
Boku wa	itu mo sinsetu ni simasyô.
Gakkô o	ehon o katte moratta.
Inu ga	4gt. ni yonensei ni narimasu.
Hito niwa	

〔Ⅲ〕 文脈によ  
って読む (2)

小学校	3年 組	番号	名 まえ	おとこ おんな
-----	------	----	---------	------------

〔もんだい 3〕

- (1) Niwatori wa  to nakimasu.
- (2) Inu wa  to nakimasu.
- (3) Usi wa  to nakimasu.
- (4) Uma wa  to nakimasu.

上の文の  の中につきのことばの中のよくあったものを一つずついれなさい。  
wanwan, mômô, hinhin, koke-kokko

〔もんだい 4〕

- (1) Kinô wa .
- (2) Kimi ga  ii noni.
- (3) Boku wa  to motte ita noni,  natta.

上の文の  の中につきのことばの中のよくあったものを一つずついれなさい。  
ikanakatta, ikô, ikeba, ikenaku

〔IV〕黙読(速さ)	小学校	3年組	番号	名まえ	おとこ おんな
------------	-----	-----	----	-----	------------

〔もんだい〕

- (1) Mukasi, mukasi, aru kuni ni, umarete kara 1-do mo waratta koto no nai ohimesama ga imasita. Ikura warawaseyô to sitemo dô sitemo waraimasen.
- (2) Sono kuni ni Hansu to iu kodomo ga imasita. Aru hi, mori de ki o kitte iruto, doko kara ka kobito ga dete kimasita.  
“Hansu San, nani ka taberu mono o kudasai.”  
Hansu wa obentô o minna yatte simaimasita.
- (3) “Hansu San, ii mono o agemasyô. Sono ki o kitte goran nasai.”

Kobito wa Hansu o ki no soba ni turete ikimasita. Hansu ga sono ki o kiruto, ki no naka kara kin no gatyô ga dete

kimasita.

(4) Hansu wa gatyô o kakaete, mati e dekakete ikimasita.

“Ara, kireina hane da koto!” Onnanoko ga tyotto gatyô no hane ni sawatta ka to omouto, te ga pita’ to kuttuite, torenaku natte simaimasita.

(5) “Ara ara, taihen! Hanasite, yo!”

Kaziya no ozisan ga bikkuri site kakete kimasita.

“Yosi yosi, wasi ga totte yarô.”

Ozisan ga onnanoko no ude o tukande hipparô to suruto, ozisan no te mo kuttuite simaimasita.

(6) “Kore wa ikenai! Korya ikenai!”

Kaziya no ozisan wa ôawate desu. Kondo wa yaoya no ozisan ga tobi-dasite kimasita.

“Kaziya no ozisan, dô sita no?” Gui to hipparu, sono ude mo yappari torenaku natte simaimasita.

(7) Matizyû wa ôsawagi desu. Ato kara ato kara kuttuite itta node, gyôretu wa nagaku nagaku natte imasita.

Hansu ga saki ni tatte, gyôretsu wa osiro ni kimasita.

Osiro no mado kara ohimesama ga mite imasita.

“O ho ho ho ho, o ho ho ho ho.”

Ohimesama wa tôtô warai-dasimasita.

〔IV〕黙読(速さ)	小学校	3年組	番号	名 まえ	おとこ おんな
------------	-----	-----	----	---------	------------

〔しつもん〕

つぎの文の { . } の中の (a) (b) (c) (d) のうちまえによんだもんだいのおはなしにいちばんよくあっているのはどれですか。

文をよくよんでいちばんよくあっているとおもうもの一つに○をつけなさい。

(1)

Ohimesama wa  
umarete kara

{	(a) yoku waratta.
	(b) yoku naita.
	(c) 1-do mo waratta koto ga nakatta.
	(d) itu mo damatte ita.

(2)

Aru hi, Hansu  
ga mori de

{	(a) mizu o kunde imasita.
	(b) obentô o tabete imasita.
	(c) ki o kitte imasita.
	(d) asonde imasita.

(3)

Hansu ga ki  
o kiruto, naka  
kara,

{	(a) kin no gatyô
	(b) kin no ono
	(c) gin no gatyô
	(d) kinka

ga dete kimasita.

(4)

Hansu wa  
gatyô o kakaete

{	(a) tôku
	(b) osiro
	(c) inaka
	(d) mati

e dekakete ikimaita.

(5)

Onnanoko no  
koe o kiite,

{	(a) ôsama
	(b) kaziya no ozisan
	(c) kerai
	(b) okâsan

ga kakete  
kimasita.

(6)

Sono tugi ni { (a) otôsn  
(b) minna  
(c) kinzyo no hito  
(d) yaoya no ozisan } ga tobi-dasite  
kimasita.

(7)

Ohimesama wa { (a) ha ha to  
(b) o ho ho ho ho,  
o ho ho ho ho to  
(c) ôgoe de  
(d) tiisana koe de } waraimasita.

[V] 黙読(理解力1)

小学校

3年

組

番号

名  
まえ

おとこ  
おんな

[ も ん だ い 1 ]

Kaze no nai, sizukana yûgata desita. Tarô San wa kaigan no ôkina iwa no ue ni kosi o kakete, kuraku narikaketa hiroi umi o zitto nagamete imasita. Sunda sora niwa mô atira kotira ni ohosisama ga hikari-hazimemasita. Iwa no sita niwa kawaii nami ga pityari pityari to yosete, sono tabi ni, kuroi mono ga yurayura to yurete imasita.

Tarô San ga huto ki ga tukuto, asi no sita ni tiisana hitode ga asai mizu no soko ni suite miemasita.

Mizu ga yureru no ni turete, hitode no 5-hon no te ga kawarugawaru nobitari tizindari site imasita.

〔しつもん〕

もんだいをよんで、つぎの答の中のいちばんよいとおもうものに○をつけなさい。

(1) このおはなしはいつのことですか。

asa

hiru

yoru

yûgata

(2) たろうさんはどこにいますか。

yama no ue

iwa no ue

sunano ue

hune no ue

(3) たろうさんの足の下に見えたものはなんですか。

kani

hitode

tiisana hitode

kurage

(4) のびたりちぢんだりしたものはなんですか。

mizu

hûsen

asi

5-hon no te

〔IV〕黙読(理解力2)

小学校

3年

組

番号

名  
まえ

おとこ  
おんな

〔もんだい 2〕

Kireina bara no hana ga saite imasita. Sono mae de, Syôiti

gurai no otokonoko ga baketu ni mizu o kunde matte imasita.

Oisisôni mizu o nomu roba. Roba no tategami o yosasiku nadete iru kodomo.

“Â, kono hô ga ii! Kore o kakô!”

Syôiti wa isoide suketti-bukku o hirakimasita.

[しつもん]

もんだいをよんで、つぎの答の中のいちばんよいとおもうものに○をつけなさい。

- (1) { (a) Syôiti wa mizu o kunde matte imasita.  
(b) Otokonoko ga mizu o kunde matte imasita.  
(c) Otôsan ga mizu o kunde matte imasita.  
(d) Okâsan ga mizu o kunde matte imasita.

- (2) { (a) Syôiti wa kireina hana o kakô to omoimasita.  
(b) Syôiti wa uma no tategami o kakô to omoimasita.  
(c) Syôiti wa kodomo to mizu o nomu roba to o kakô to omoimasita.  
(d) Syôiti wa suketti-bukku o kakô to omoimasita.

[VII] 音 読

小学校	3年 組	番号	名 まえ	おとこ おんな
-----	------	----	---------	------------

[もんだい]

Huyu no Asa

“Mô okinasai! Zikan desu, yo,” to okâsan ni okosarete me ga sameta. Samukute, okiru no ga iya datta keredo, gaman

site, "Hai!" to genki yoku hane-okita.

Amado o akete, omote o miruto, doko no yane mo, hatake mo, miti mo, simo ga orite massiro da.

Tôhuya san ga tenugui o kabutte, 'pû, pû,' to rappa o nara-sinagara, zitensya ni notte kita. Kinzyo de "Otôhuya sân," to yobu koe ga kikoeta. Otonari no obasan mo nabe o motte, "Ô, samui, samui!" to iinagara, tôhu o kai ni kakete itta.

Watakusi wa kao o arai ni idobata e itte, asimoto no simo-basira o sôtto te de sukutte mita. Hosoi, tiisana kôri ga ami no yôni nattte ita.

Humiyotyân no obâsan ga baketu o motte, mizu o kumi ni kita. "Tumetai desyô," to iinagara, mizu o kunde isogasisôni kaette itta.

Atatakai gohan o tabete iruto, mô mado ni hi ga sasite kita. Sora mo aoao to site, ii otenki da. Yane no simo mo toke-hazimeta.

開始時刻	終了時刻
時 分	時 分

評 価 表	
語 形 の 数 ( 語 )	符 号 の 数 ( )
/ 読み誤った語形の数 ( 語 )	(その例)
φ 読みなおした語形の数 ( 語 )	
× 読めなかった語形の数 ( 語 )	
⊗ 考えて読めた語形の数 ( 語 )	
- 読み落した語形の数 ( 語 )	
∧ 読み加えた語形の数 ( 語 )	



正しく読めた語形の数 ( 語 )	注意しないで読んだ符号の数 ( )	注意して読んだ符号の数 ( )
指でおさえて読んでいないか。	いない	いる
拾い読みをしていないか。	いない	いる
意味をとって読んでいるか。	いる	いない
意味に応じて調子をつけて読んでいるか。	いる	いない

〔難〕音 読

小学校	3年組	番号	名まえ	おとこ おんな
-----	-----	----	-----	------------

〔しつもん〕

いまよんだ文からつぎの答のうち正しいとおもうものを  
言いなさい。

(1) いつのことですか。

あさ

なつのあさ

ふゆのあさ

よる

(2) どういうあさでしたか。

あめがふっていた。

かぜがふいていた。

ゆきがふっていた。

しもがおりていた。

(3) だれが じてんしゃに のって きましたか。

ゆうびんやさん

とうふやさん

ぎゅうにゅうやさん

しんぶんやさん

(4) かおを あらいに どこへ きましたか。

だいどころ

すいどう

おがわ

いどばた

(5) だれが 水を くみに きましたか。

おとなりの おばさん

ふみよちゃんの おばあさん

おかあさん

いもうと